８．リース取引の処理方法

リース料総額が300万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

リース料総額が300万円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

９．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式を採用しています。

注記事項

（貸借対照表関係）

１．翌期の運営費交付金により充当されるべき賞与の見積額　327,657,836円

２．翌期以降の運営費交付金により充当されるべき退職手当の見積額　6,074,920,196円

３．減損会計に係る注記

翌事業年度以降の特定の日以後使用しないという決定を行った固定資産

①　使用しないという決定を行った固定資産の用途、種類、場所等の概要

用途	種類	場所
特殊ガス防災設備、電灯設備、動力設備ほか	建物	福岡センター門司事務所福岡県北九州市門司区西海岸１－３－10　門司港湾合同庁舎

②　使用しなくなる日

平成25年度中

③　使用しないという決定を行った経緯及び理由

第３期中期計画において、効率的な組織体制の確保のため門司事務所を福岡センターへの移転統合を検討することとし、検討の結果、平成25年度に門司事務所を廃止し福岡センターへ移転統合することを決定しました。

これに伴い、現在入居している合同庁舎において門司事務所が専有している設備等については、処分することとしています。

④　将来の使用しなくなる日における帳簿価額、回収可能サービス価額及び減損額の見込額

（単位：円）

内訳	帳簿価額	回収可能サービス価額	減損見込額
建物	9,123,782	0	9,123,782

（損益計算書関係）

ファイナンス・リース取引の損益に与える影響額

ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は、190,189円であり、当該影響額を除いた当期総利益は、24,069,378円です。

（キャッシュ・フロー計算書関係）

１．資金の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金勘定　1,400,566,007円

資金期末残高　1,400,566,007円

２．重要な非資金取引

不要財産の現物による国庫納付　173,503,587円

（行政サービス実施コスト関係）

引当外退職給付増加見積額には、国からの出向職員にかかるものを含んでいます。

（行政サービス実施コストに準ずる費用関係）

独立行政法人会計基準第24の項目には該当しませんが、行政サービス実施コストに準ずる費用は次のとおりです。

筑波共同利用施設から提供を受けている受益の費用　512,975円

（金融商品の時価等に関する注記）

１．金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については短期的な預金に限定し、主に国から交付される運営費交付金、施設整備費補助金等により資金を調達しています。

２．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
⑴現金及び預金	1,400,566,007	1,400,566,007	—
⑵未払金（※）	（796,206,260）	（796,206,260）	（—）

（※）　負債に計上されているものは、（　）で示しています。

㈱　金融商品の時価の算定方法

⑴　現金及び預金

現金及び預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

⑵　未払金

未払金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

（資産除去債務関係）

１．資産除去債務の内容

単独庁舎及び合同庁舎の使用許諾契約等に基づく原状回復義務、土壌汚染対策法に基づく調査費用及び石綿障害予防規則に基づくアスベスト除去費用です。

２．支出発生までの見込期間、適用した割引率等の前提条件

見込み期間　６年～49年

割引率　0.688%～2.302%

３．資産除去債務の総額の期中における増減内容

期首残高	314,231,685円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—円
時の経過による調整額	4,372,628円
資産除去債務の履行による減少額	△4,063,830円
その他増減額（△は減少）	—円
期末残高	314,540,483円

（不要財産に係る国庫納付等に係る注記）

１．不要財産としての国庫納付等を行った資産の種類、帳簿価格等の概要

政府出資である固定資産

（単位：円）

資産の種類	帳簿価額（国庫納付時）
土地	168,600,000
建物	4,780,116
構築物	123,471